

武蔵野



武蔵野支局 〒180-0006
 武蔵野市中町1の13の1 3F
 電話 0422(51)3131
 FAX 0422(51)3133
 musasino@yomiuri.com
 都内版編集室
 電話03(3217)1465・1466
 江東支局 電話03(3631)6116
 立川支局 電話042(523)4477
 ホームページ
 www.yomiuri.co.jp/local/

購読は
0120-4343-81

【広告】読売Palette
 03(6272)9027
 【折込チラシ】 0120-03-4343
 【読売旅行】 03(5550)0666

3月18日(木曜日)
 旧 2月6日<先勝>

あすの暦	通日 77		満潮 7.04
	月齢 4.7 (正午)		干潮 1.14
	日出 5.48		13.39 (中潮)
	日入 17.51		
	月出 8.20		
	月入 22.18		

桐たんす
 単筒の**松本**
 四谷本店に130棟展示
 フリーダイヤル
10年保証 0120-30-4440

与謝野鉄幹は、正岡子規とともに「万葉に還れ」と主張し詩歌の革新を目指しました。文芸雑誌「明星」では西欧詩を受容し自我の表象や浪漫主義を演出。与謝野晶子はそれを体現しますが、作品の下地には王朝の歌物語や「新古今集」がありました。そこに子規とも鉄幹とも異なる独自性がありました。「みだれ髪」刊行直前の「明星」の茶話会で晶子らが輪読していたのは「伊勢物語」でした。

「紫」に詠んだ恋愛模様 文人の武蔵野

与謝野鉄幹・晶子夫妻 ③



与謝野晶子の歌碑。道玄坂上でたすみ詠んだ歌が刻まれている(渋谷区道玄坂)

1900年夏、晶子は親友で歌人の山川登美子とともに大阪の宿を訪れ初めて鉄幹と対面します。その一か月後、鉄幹は東京で同棲中の女性との間に子を授かります。まもなく、鉄幹と晶子と登美子は京都に遊び、鉄幹に想いを寄せる登美子が意に沿わぬ結婚を機に夫とともに上京。翌01年、鉄幹と晶子は京都に再遊

し、鉄幹は歌集「紫」を刊行。すでに晶子も上京し、歌集「みだれ髪」を刊行します。秘密の恋の舞台だった「万葉集」の武蔵野。罪の恋の舞台だった「伊勢物語」の武蔵野。「紫」を武蔵野の象徴にした「古今和歌集」や武蔵野を光源氏の隠された恋を生み出す場所として描いた「源氏物語」。「紫」と「みだれ髪」はそれらに連なる作品です。鉄幹の「わが歌は芙蓉のしるぎ梅の清き恋はすみれの紫をこそ」(「紫」)を受けて、晶子は「きけな神恋はすみれの紫にゆふべの春の讚嘆のこゑ」(「みだれ髪」)と返します。「明星」同人内で紫は恋を意味する特別な隠語でした。鉄幹は登美子を白芙蓉と呼んでいました。一対一の関係や三角関係に収まらない恋愛模様が武蔵野の歌物語の中で繰り広げられたのです。

おすすめの1冊

「新版 評伝与謝野寛晶子」 (明治篇・大正篇・昭和篇)

与謝野夫妻の作品とともに確実に後世に残る評伝です。新版は、明治篇・大正篇・昭和篇の3冊。同じ著者の「新みだれ髪全集」とともにおすすめします。類書には遺漏や誤りも多いので、それを補い訂正するためにも必読の書となります。



(逸見久美著、八木書店)

(武蔵野大教授、むさし野文学館館長・土屋忍)